

意図しない空地
都市が生み出す空白
吉松秀樹 教授 印

2BEB1209 出澤 雄太

1. 意図されない空間への魅力

利便性や機能性を重視して作られた都市の中で、計画・意図して作られた『建築（図）』の空間に対して、意図して作られていない『地』の空間に興味を持った (fig. 1, 2)。



fig.1 都市の中の地



fig.2 隙間にある川で遊ぶ子供

2. 都市の中の露地

計画された露地（茶庭）には機能を持つ空間と持たない残余の空間が存在し、後者が路地の空間を引き立てている。都市の中にも同じように偶発的に生まれた残余の空間が存在し、露地と同じように都市の空間を引き立てている。(fig. 3, 4)



fig.3 意図しない空地

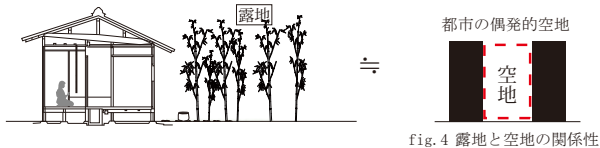


fig.4 露地と空地の関係性

3. 図と地の関係

心理学で、ある物が他の物を背景として全体の中から浮き上がって明瞭に知覚されるとき、前者を図といい、背景に退く物を地という。(fig.5)
建築家レム・コールハースはこの関係性から、ジェネリック（反復空間）とヴォイド（空虚）を用いた設計を行っている。(fig.6)



fig.5 ルビンの杯

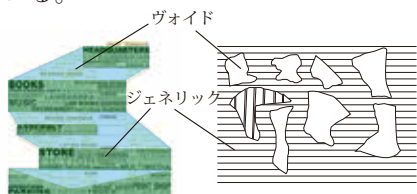


fig.6 ヴォイドを用いた設計手法

4. 連続したヴォイド空間

意図したボリュームを計画し、その隙間に偶発的なヴォイドを生み出す。ヴォイドどうしをつなげることで、連続したヴォイドの空間が生まれる。図と地を反転させることで、ヴォイドが図となる住宅の設計を行うことが可能である。(fig.7)

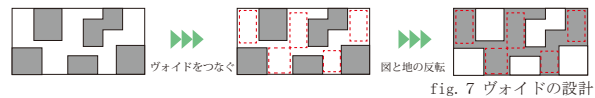


fig.7 ヴォイドの設計

5. 図と地の反転による設計

図と地の反転によって普段図である個室は、地となり都市に開く要素が生まれる。個室の壁をセットバックさせ配置することで、外部と内部の間に中間の領域が生まれ、プライベート性を保ったまま建築を都市へと開くことが可能となる。(fig. 8, 9)

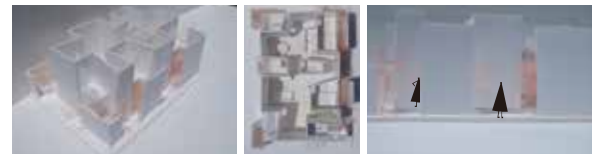


fig.10 模型写真

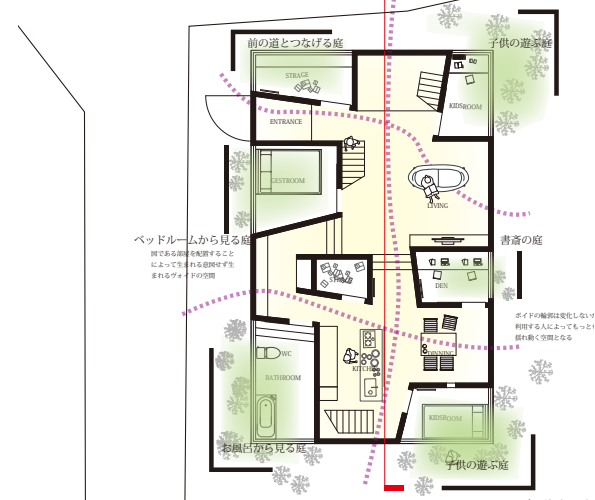


fig.11 1F 平面図 1/250

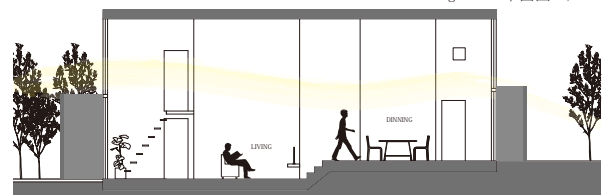


fig.12 断面図 1/250